

<p>第33回研究発表大会</p> <p>大会テーマ:倫理的かつ専門性をもったコミュニケーション～調査研究等の博物館の基盤的活動を人々に伝える手法について</p>			
<p>口頭発表詳細</p> <p>日 時 : 令和8年2月18日(水) 10:00～17:10</p> <p>【会場】 国立科学博物館筑波研究施設 総合研究棟8階大会議室</p>			
<p>【開 会】</p> <p>9:30 ～ 9:55 《 受 付 開 始 》</p> <p>10:00 ～ 10:10 《 開 会 挨 拶 》</p>			
<p>【第1ブロック】</p> <p>10:10 ～ 研究発表① 現在も継続する災害の博物館展示に関する一考察 東日本大震災・原子力災害伝承館 瀬戸 真之</p> <p>10:30 ～ 研究発表② 未来館展示「Geo-Scope」のリニューアルと、オンライン展示体験サイト「Geo-Online」の開発および学校授業での活用 日本科学未来館 平井 元康・小林 浩太</p> <p>10:50 ～ 研究発表③ 大学附属博物館における先端研究の発信―「シルクが切り開く未来展」にみる科学と社会の対話― 東京農工大学科学博物館 齊藤 有里加・中澤 靖元・上田 裕尋</p> <p>11:10 ～ 研究発表④ 理科の楽しさを伝える「センター学習」と「新展示品開発」 京都市青少年科学センター 中井 祥平</p> <p>11:30 ～ 研究発表⑤ 専門分野を博物館展示に活かす:爬虫類・両生類の事例 国立科学博物館 吉川 夏彦</p>			
<p>【ポスター発表】</p> <p>11:50 ～ 12:00 《 ポスターセッション インデックス・プレゼンテーション 》</p> <p>12:00 ～ 13:00 《 昼 食 ・ 休 憩 》</p> <p>13:00 ～ 13:30 《 ポスターセッション コアタイム 》</p>			
<p>【第2ブロック】</p> <p>13:30 ～ 研究発表⑥ 日本語教室との協働と地域博物館の役割 浜松科学館 横田 誓子・島田 真帆</p> <p>13:50 ～ 研究発表⑦ 視覚障害者向け常設展示ツアーの実践と課題～触って体感する宇宙のくらし 日本科学未来館 三浦 菜摘(佐野 広大・澤田 拓実・荒木 千賀・永田 順子)</p> <p>14:10 ～ 研究発表⑧ 視覚障がい者を対象とした、初代南極観測船「宗谷」のタッチングツアー「宗谷にタッチ！」について 公益財団法人日本海事科学振興財団 船の科学館 高橋 昌代</p> <p>14:30 ～ 研究発表⑨ 障害者の生涯学習に関する地域連携とDEI行動規範の策定 兵庫県立人と自然の博物館 橋本 佳延・廣瀬 孝太郎・藤井 俊夫・衛藤 彬史・石田 弘明</p> <p>14:50 ～ 15:05 《 休 憩 》</p>			
<p>【第3ブロック】</p> <p>15:05 ～ 研究発表⑩ 植物の多様性に関する研究とその成果の展示への活用 国立科学博物館 村井 良徳</p> <p>15:25 ～ 研究発表⑪ 三松三朗氏の実践した火山と共生するためのサイエンスコミュニケーション 磐梯山噴火記念館 佐藤 公(箱根ジオパーク推進協議会荒木 藍)</p> <p>15:45 ～ 研究発表⑫ 科学館における「非認知能力」涵養の実践 ―教育プログラムを特別展へ展開する試 福岡市科学館 高山 裕明・上田 恭子</p> <p>16:05 ～ 研究発表⑬ 科学館が開く「学びの場」 佐賀県立宇宙科学館 伊藤 明徳</p> <p>16:25 ～ 研究発表⑭ 博物館所蔵ボーリング標本を用いた学校向け貸し出し教材開発による地学教育支援 大阪市立自然史博物館 石井 陽子</p> <p>16:45 ～ 研究発表⑮ 科学博物館におけるマンガ展の開催に関する考察 国立科学博物館 栗原 祐司</p>			
<p>【閉 会】</p> <p>17:05 ～ 17:10 《 閉 会 挨 拶 》</p>			

ポスターセッション詳細

コアタイム時間：令和8年2月18日(水) 13:00～13:30

【会 場】 国立科学博物館筑波研究施設 総合研究棟8階大会議室前

- 1 研究者による展示解説“ガイドツアー”を通じた
来館者エンゲージメント向上の試み：地質標本館での実践
〔産業技術総合研究所 地質標本館 瀬口寛樹、福田和幸、武井勇二郎、藤原智晴、中澤 努〕
- 2 鉱物を絵の具に -関心を繋ぐ体験イベント-
〔産業技術総合研究所 地質標本館 川邊 禎久〕
- 3 学芸員の活動を伝える -大阪市立科学館の事例-
〔大阪市立科学館 嘉数 次人〕